



## 命を守る救急車

立正大学付属立正中学校 三年 神本 裕亮

今年の夏は本当に暑く、昨年の暑さを上回るそうです。この猛暑の中、熱中症にかかる人が多く、重症化すると命に関わる病気であるため、救急車の出動件数が増加するそうです。たしかに、七月に入ってから、救急車のサイレンを聞くことが多くなりました。

現在、日本では、救急車を無料で利用することができません。本来なら、一回の出動に約四万五千円かかると言われており、税金が財源となっています。よく考えてみれば、救急隊員の方々にかかる人件費、救急車のガソリン代、医療器具などの費用は必要となります。外国では救急車が有料の国も多くあり、数万円から数十万円請求されるそうです。

僕は救急車について調べる中で、救急車を無料で利用できることは、当たり前のことではなく、とても幸せなことだと気づきました。もし、救急車が有料ならば、体調が悪くても呼び出さず、医療処置が遅れてしまうことがあるかもしれません。

僕の祖母は数年前、自宅に一人でいるときに、お腹が急激に痛くなり、動けなくなっていました。意識が薄れる中、なんとか自力で救急車を呼び出すことができ、医師に診てもらったことができました。祖母は大腸穿孔という病気で、すぐに手術しなければ、命は助からなかったそうです。

救急車にすぐに来てもらうことができたため、祖母は助かりました。現在、祖母は元気になりましたが、今でも「救急隊員の方々のおかげだよ。助けていただきました」と

と感謝しています。

おそらく世の中には、僕の祖母のように、救急車によって命を救われた人はたくさんいるかと思っています。緊急を要する救急車の出動が本来の目的であるはずなのに、そうではない出動が増加しており、問題になっています。例えば、今日入院する日なので、迎えに来てもらうために救急車を呼んだとか、いつもの飲み薬を持ってきて欲しい、手を紙で切ってしまった等、中学生の僕が考えても不適切だと分かる理由で、救急車を呼び人達が増加しているそうです。このような出動要請が増え続けたら、一体どうなってしまうのでしょうか。一番深刻な問題は、僕の祖母のように、重症患者やすぐ医師に診てもらわなければならない人が救急車を利用できなくなってしまうことです。このようなことが起きないようにしなければなりません。

日本でも救急車を有料にするべきだという動きがあります。三重県松坂市では、今年の六月から、救急車で運ばれて入院に至らなかった場合、七千七百円を支払うという取り組みが始まりました。僕はこのような有料化は必要だと思います。

救急車は、命の危機から国民を守ってくれます。だからこそ、税金が使われています。救急車が正しく利用されることを望みます。